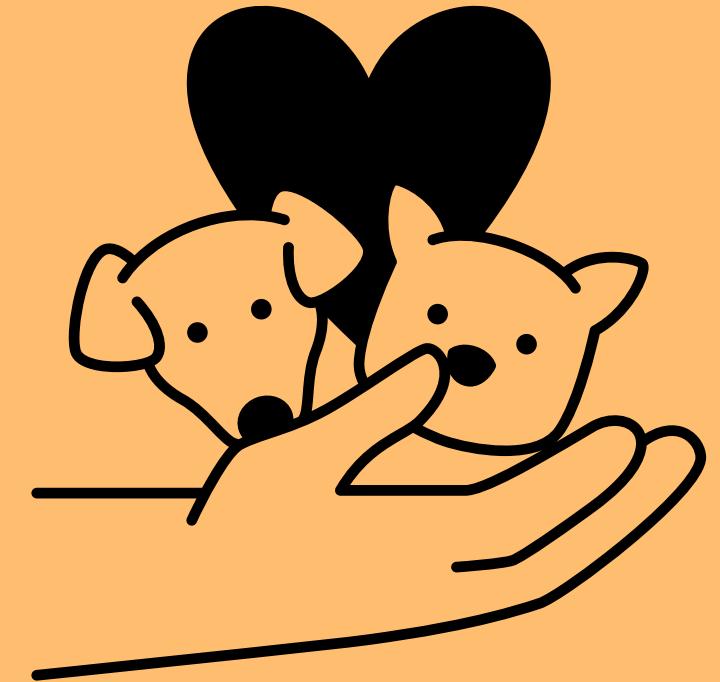


飼い主のための

災害時のペットとの 避難ガイドライン

令和7年11月版



はじめに

もしものときに飼い主がペットと一緒に避難するためには、しつけや健康管理を行っておく、ペット用の避難グッズをまとめておくなど日頃からの備えが大切です。また、避難所では様々な人が共同生活を送ることになります。周りの方へ配慮しながら、飼い主が責任をもってペットの世話をを行うことも心づもりしておきましょう。

大切な家族であるペットが、災害時にも飼い主とともに安全に過ごせるよう、このガイドラインを活用いただければ幸いです。



《ペットの同行避難》

災害時には、ペットとともにより安全な場所まで避難する「同行避難」をしましょう。

過去の災害では、いったん避難した飼い主がペットを避難させるために自宅に戻って災害に巻き込まれたことがありました。

飼い主自身の安全を確保するためにも、日頃から適切な備えを行って躊躇せず避難できるようにしましょう。

目次

1 ペットの飼い主がすべきこと

- (1) 日頃からの備え
- (2) 災害時には

2 避難所でのペットの一時飼育について

- (1) 人とペットの居住スペースは分ける
- (2) 飼い主が行うこと
- (3) ペットのことは飼い主の責任で
- (4) 避難所での飼育ルールを守る

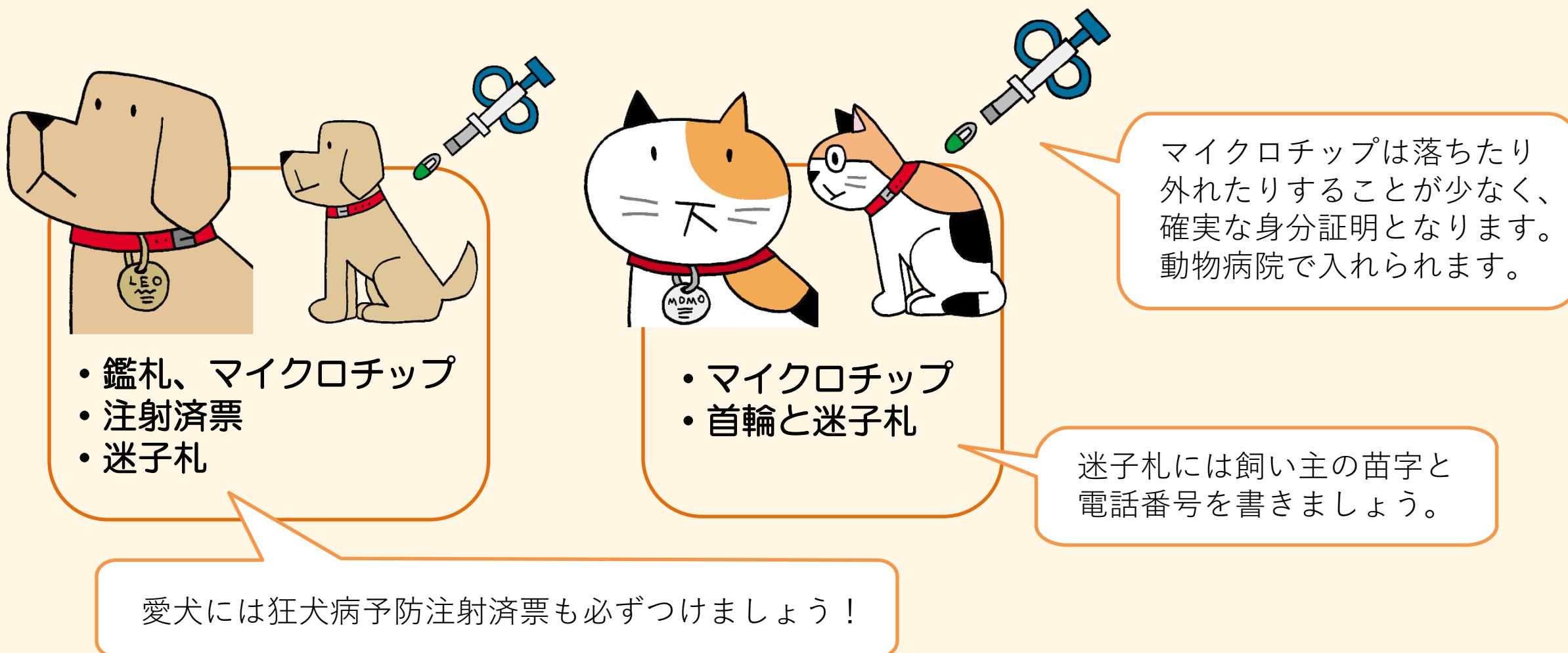


1ペットの飼い主がすべきこと

(1) 日頃からの備え

①「どこの子?」「うちの子!」がわかる身元表示を!

災害時は、ペットがはぐれてしまうこともあります。保護されたときに飼い主の元へ戻れるよう、迷子札やマイクロチップを付けておきましょう。



②健康管理

避難所では、ストレスで免疫力が低下し体調を崩したり、他の動物との距離が近いため感染症のリスクが高まります。健康管理、予防対策をしておきましょう。

- 定期的に健康診断をし、病気の早期発見に努める
- 避妊去勢手術をしておく
- ノミ、マダニなどの外部寄生虫を駆除・予防する
- 混合ワクチン、狂犬病予防注射をする
- 猫はウイルス感染症や外部寄生虫への感染を防ぐため、完全室内飼いをする



③しつけ・トレーニング

避難所へのスムーズな同行避難とその後の生活を考えると、トレーニングやしつけも重要です。

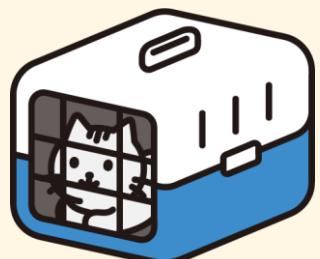
- ケージやキャリーに嫌がらずに入れるように慣らす
- ケージで過ごすことに慣れておく
- 家族以外の人や他の動物にも慣れておく
- 特に犬は、不必要に吠えないよう原因と対策を考えておく

ドッグトレーナーへの相談もおすすめ

【繰り返しやってみよう！キャリー慣れトレーニング】

キャリーケースを見慣れさせる

- 普段からキャリーの扉を開けたまま、リビングなどに出しておく
- お気に入りのタオルや毛布を敷いておく



ごほうび（おやつ）で誘導する

- キャリーの手前からてんてんとおやつを置き、中にも置いておく
- 優しく声をかけながら、キャリーの中でおやつを追加
- だんだん奥のほうに置く
- 猫ならマタタビでの誘導もおすすめ

キャリーの扉を閉める

- 全身が入るようになったら、静かに閉める
- 出てこないでおやつを食べていたら、隙間からおやつを追加
- 猫の様子を見ながら徐々に閉める時間を長くしてみる

繰り返しやろう！

④ペット用の避難用品を準備しておく

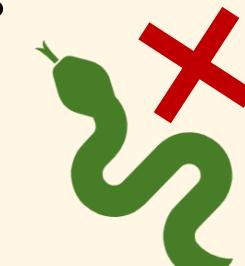
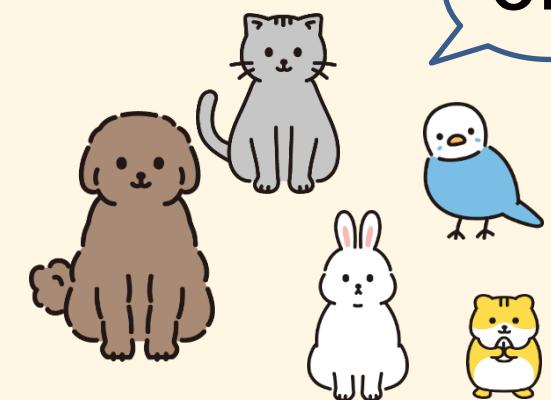
- ペットフード、水(少なくとも5日分)
- 服用中の薬、療法食
- 食器
- トイレ用品(猫の場合は使い慣れた猫砂も)
- 予備の首輪やリード
- 飼い主の連絡先、飼い主以外の緊急連絡先、預け先などのメモ
- ペットの写真(印刷+スマホにも保存)
- ワクチン接種やかかりつけ動物病院の情報



この他にも、
• 養生テープ
• 新聞紙、ビニール袋
• ペットが使い慣れたバスタオル
などもあるとより安心です

⑤ペットの一時預け先を確保しておく

- ・避難所で受入れが可能なペットは、原則として、家庭で飼育されている犬、猫、小動物(うさぎ、小鳥、ハムスターなど)です。OK
- ・避難所だけでなく、親戚や友人、動物病院、ペットホテルなど、複数の預け先を確保しておくと安心です。
- ・大型の動物や危険な動物などは、避難所での受入れができません。ブリーダーなど動物取扱業者の多数の動物も同様です。
ご自身で預け先を確実に確保してください。



(2) 災害時には

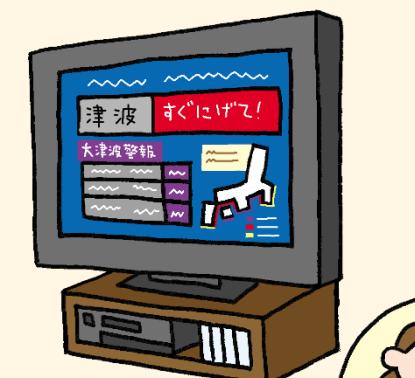
① 安全確保・状況確認をする

- まずは飼い主自身の安全を確保します。
- 突然の災害でペットもパニックになり、いつもと違う行動をすることがあります。ペットを落ち着かせながら、リードをつける、ケージに入れるなどして逃げないようにしましょう。
- ラジオやテレビ、市ホームページなどから正確な情報を積極的に得てください。



② 避難先・避難方法を判断する

- 得られた情報をもとに自宅や地域の状況を確認し、避難するか自宅にとどまるかを判断します。
- 自宅が危険な場合や避難指示が出ている場合には、避難所等の安全な場所へ避難してください。
- 避難所の他、車の中での飼育や、親戚や友人へ預ける選択肢もあります。※



※様々な選択肢がありますが、本ガイドラインでは、主に避難所での一時飼育について記述します

車中泊は、エコノミークラス症候群や熱中症に注意を！



③ペットとの同行避難

- ・自宅以外へ避難する場合は、ペットを連れ同行避難します。
- ・災害時にペットと離れた場所にいる場合は、災害の種類や自分自身の被災状況、周囲の状況、自宅までの距離、避難情報などを考えて、飼い主がペットを避難させることができかどうか判断してください。



④避難所に到着したら

ペット同行避難者の受付を済ませ、飼育スペースへ



避難所の運営者の指示に従い、ペット対応に協力する

- ・ペットの一時飼育スペースの設営（カラーコーン等あるもので）
- ・必要に応じて室内の壁や床をブルーシート等でカバー
- ・新たな同行避難者の受付や誘導を行う等



避難所にスターターキット*がある場合は、その内容に従うとスムーズに準備できます。

*スターターキットとは：

　　ペットを連れて避難してきた飼い主同士が協力し合い、速やかにペットの避難スペースを設営・運営できるようにあらかじめ指示書(ミッションカード)と物資をまとめておいたセット

2 避難所でのペットの一時飼育について

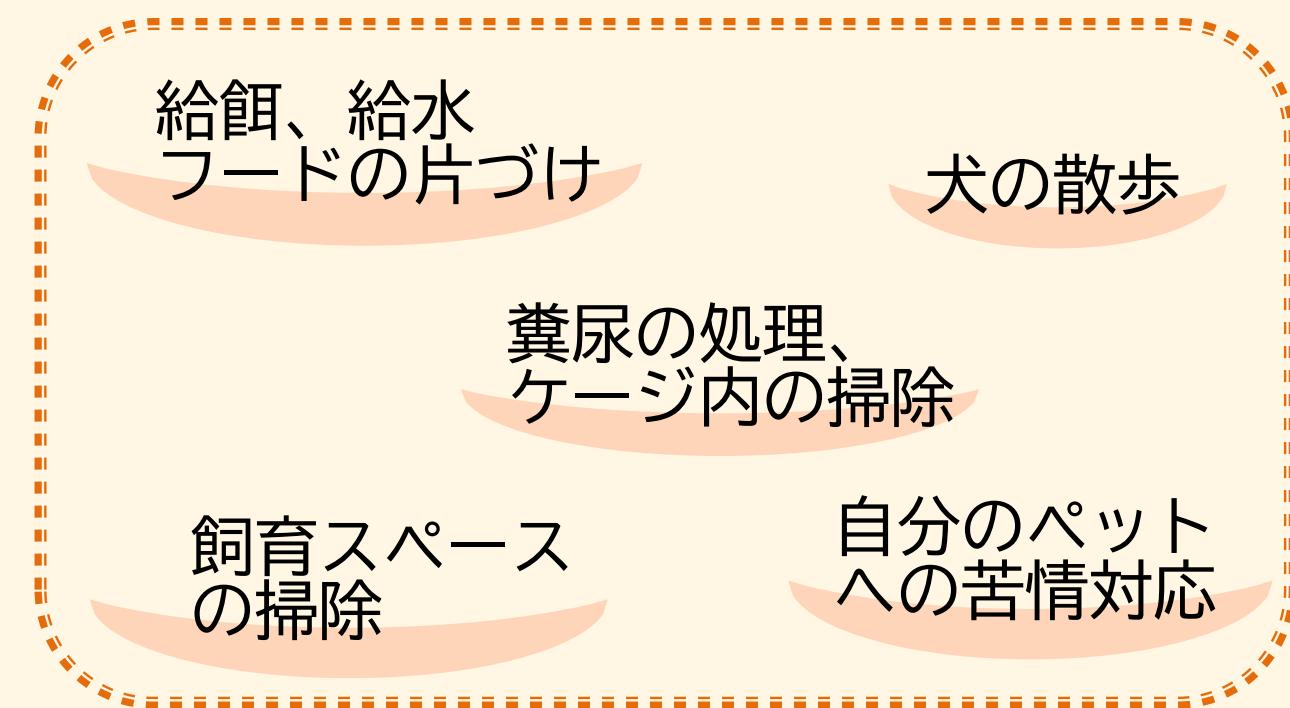
(1)人とペットの居住スペースは分ける

避難所では、動物が苦手な人やアレルギーのある人もいるため、人とペットの居住スペースを分けます。

ペットは、指定された場所でケージ等に入れておくことを基本とします。

(2)飼い主が行うこと

飼い主同士で協力し合いながら、
ペットの管理等を行います。



(3)ペットのことは飼い主の責任で

お世話や当面のえさの確保、逃げ出し防止、飼育場所の管理は、飼い主が責任を持って行います。

ペットを飼っていない方々と一緒に生活する上で、普段以上に様々な配慮を心掛けましょう。

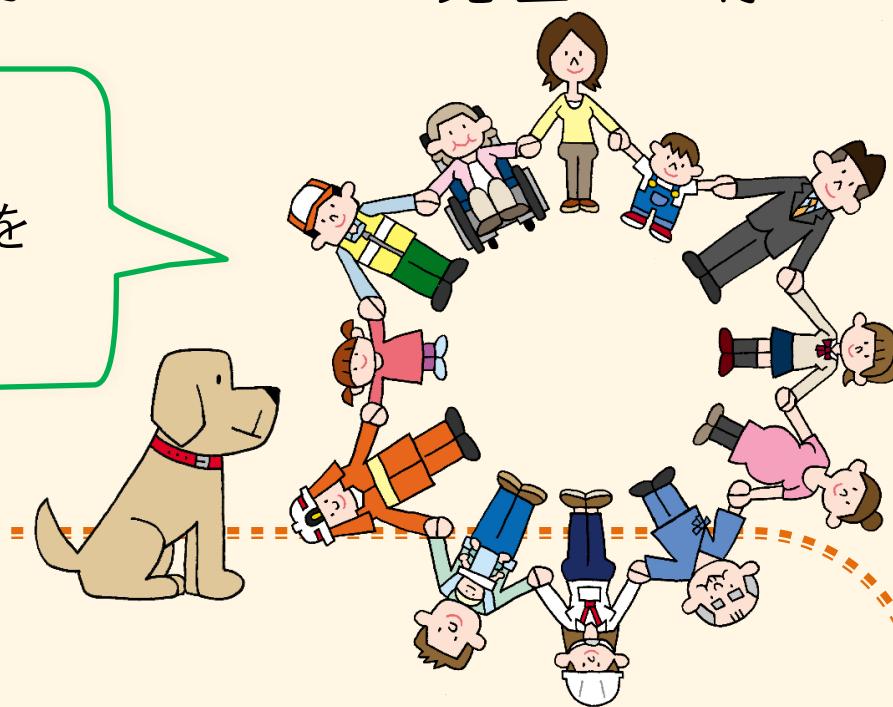
(4) 避難所での飼育ルールを守る

飼い主は、ペットに関するトラブルが起きないように、飼育ルールを守って飼育します。

(例)「ペットの飼い主の皆さんへ」(参考様式)

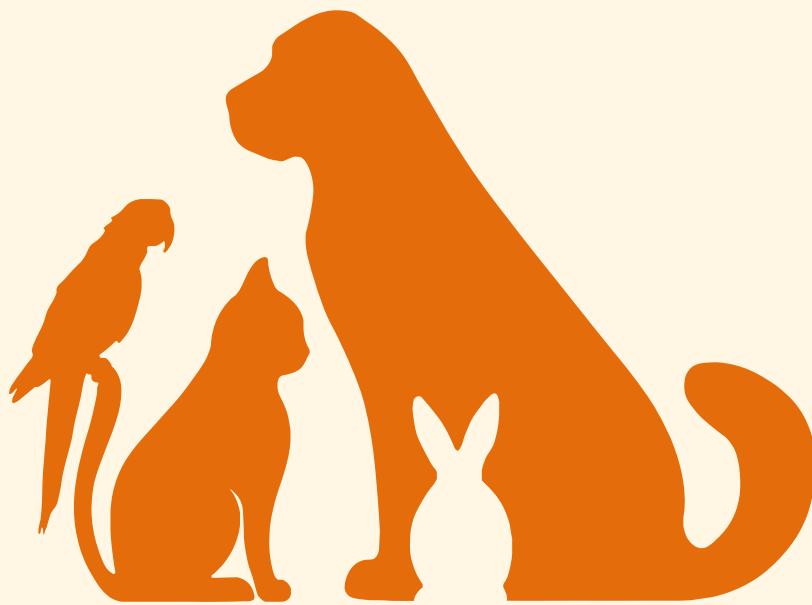
飼い主と避難所運営者とで協議して、必要に応じてルールの見直しを行います。

飼い主どうし協力しあって、
避難所でのペットとの暮らしを
トラブルなく乗り切ろう！



「ペット家族会」結成のススメ

- 一時飼育スペースのペットの飼育や衛生管理などは、飼い主人ひとりが責任を持って行うのが原則ですが、飼い主同士の協力体制を築くため、ペットの家族会を結成しましょう。
- 家族会は、新たなペット同行避難者の受付、ペット一時飼育スペース全体及びその周辺の清掃などの維持管理、ペット救援物資の搬入や仕分けなどを行います。
- 家族会の中から避難所運営者との連絡窓口となる代表者を決めます。
- 代表者は、避難所運営者との連絡窓口となり、避難所運営者との調整や、ペットの家族会メンバーからの意見の集約、ペットの飼育ルールの周知などを行います。



【盛岡市公式ホームページ】 飼い主とペットのいのちを守る!災害対策
ページはこちら⇒



お問い合わせ先

ペットの取扱いについて・・・・・・・・・・・・・・保健所生活衛生課
TEL：019-603-8312

避難所の運営について・・・・・・・・・・・・・・・総務部危機管理防災課
TEL：019-613-8386

令和7年11月発行